

令和 7 年度指定管理者管理運営状況評価 評価結果一覧

	施設名	所在地	指定管理者名	指定期間	総合評価	評価内容
①	東京体育館	東京都 渋谷区 千駄ヶ 谷 1- 17-1	(公財) 東京都 スポーツ文化 事業団 グループ	R5. 4. 1 ～ R10. 3. 31	A	・令和 6 年 8 月の浸水被害を教訓に、集中豪雨予測時の事前対応体制を構築するなど、実効性のある再発防止策を講じている。 ・世界陸上やデフリンピックの開催に当たっては、早朝夜間の対応等、イレギュラーな要望にも柔軟かつ適切に対応し大会運営に大きく貢献した。 ・車いす対応更衣室において低配置型水着脱水機の設置等、障害のある方が利用しやすい施設運営を進めている。 ・スポーツ振興事業について、事業ごとに参加率のばらつきがあり、参加率の低い事業の改善が求められる。
②	駒沢オリンピック公園 総合運動場	東京都 世田谷 区駒沢 公園 1- 1	(公財) 東京都 スポーツ文化 事業団 グループ	R5. 4. 1 ～ R10. 3. 31	A	・維持保全業務標準仕様書を上回る 1 日 3 回以上の日常巡回点検の実施に加え、独自の「打診検査」を新たに導入するなど、予防保全に積極的に取り組んでいる。 ・利用者アンケート総合満足度が個人 97.5%、団体 98.6%と高い評価を得ている。 ・大規模水害時における広域避難先としての調整を進めるなど、都政に貢献している。 ・スポーツ振興事業について、事業ごとに参加率のばらつきがあり、参加率の低い事業の改善が求められる。
③	東京武道館	東京都 足立区 綾瀬 3- 20-1	(公財) 東京都 スポーツ文化 事業団 グループ	R5. 4. 1 ～ R10. 3. 31	A	・柔らかく負荷のかかりやすい第二武道場の床については毎週 1 回の状態確認を実施するなど、施設特性を踏まえたきめ細かな点検と迅速な修繕対応を実施している。 ・武道・茶道体験ではアプリを用いた多言語音声ガイドを構築したほか、休館日を活用して地元小学校と連携したクイズラリー等を行い、施設の付加価値を高めている。 ・SNS の積極活用など広報手法の見直しにより、前年度と同程度の予算で個人利用者数を 7.1%増加させるなど、効率的な広報活動を行っている。 ・自主事業の参加率が軒並み低く、改善が求められる。

	施設名	所在地	指定管理者名	指定期間	総合評価	評価内容
④	有明テニスの森公園テニス施設	東京都江東区有明2-2-22	有明テニス・マネージメントチーム	R5. 4. 1 ～ R10. 3. 31	S	・修繕の直営作業化等により支出を抑制したことで光熱水費等の影響を吸収し、適切な財務状況下での管理運営を実現している。 ・ピククルボール世界大会の誘致など新しいスポーツへの対応や、テニス閑散期におけるコロシウム利用促進として「PRIME VIDEO BOXING」や「整体日本一決定戦」など新規大規模大会の誘致など、積極的な営業活動を展開している。 ・コートサーフェス塗り替え工事を実施している中、工事の進捗に合わせた閉鎖・再開等の利用調整を行い、例年以上の大会数を実現した。 ・デフリンピックに向けて受付の「耳マーク」の掲示や、筆談ボード・手話アプリ等の導入を実施するとともに、デフリンピック開催時には円滑な運営に向けてサポートし、大会の成功に貢献した。
⑤	若洲海浜公園ヨット訓練所	東京都江東区若洲3-1-1	若洲シーサイドパークグループ	R5. 4. 1 ～ R10. 3. 31	A	・「GHG 報告書作成ツール」を用いて CO2 排出量を算出し、R6 年度 (30t-CO2) から R7 年度 (17.4t-CO2) へと低減させるなど、環境負荷低減に努めている。 ・「障害者セーリング体験会」においては、1 回の定員が限られる中でもより多くの方が体験できるよう一般社団法人パラセーリング東京と綿密に調整を行うとともに、付添者も共に体験できる環境を整備するなど利用者の視点に立った細やかな運営を行っており、障害者スポーツの振興に寄与している。 ・利用者の声を反映し 4 月下旬～9 月上旬における利用時間の延長や、近隣の特別支援学級によるヨット体験の積極的な受入等により、多くの利用者に体験機会を提供している。 ・マリンスフェスティバルやヨット教室などでの参加者増やマリンスポーツに対する都民の興味関心を高める取組を期待したい。
⑥	京王アリーナ TOKYO	東京都調布市西町290-11	東京スタジアムグループ	R5. 4. 1 ～ R10. 3. 31	S	・コンソーシアム各社と連携したマンホールトイレ設置訓練や聴覚障害者に配慮した避難訓練を実施している。また、独自の取組として、警察署指導による護身術やさすまた・盾を用いた凶器保持者への対処訓練を実施し、職員の初動対応や安全防衛スキルの向上を図っている。 ・令和 7 年 5 月から導入したネーミングライツにより財務基盤が強化されるとともに、パートナー企業と連携した取組として、トップアスリートによる直接指導の機会創出を行うなど、施設の価値向上に努めている。 ・日本車いすバスケットボール連盟やパラスポーツサポートセンター等と連携した体験会等を開催し、パラスポーツの振興に貢献している。 ・運動会等の学校行事の受入れや地元自治体の屋外プール休止時の子供向け無料開放など、地域課題へ対応した取組を行っている。

	施設名	所在地	指定管理者名	指定期間	総合評価	評価内容
⑦	海の森水上競技場	東京都江東区海の森 3-6-44	海の森水上競技場マネジメント共同企業体	R5. 4. 1 ～ R10. 3. 31	B	・海に近接する水上競技場特有の環境（鳥獣、魚、塩害など）を考慮した清掃マニュアルや「水上コース水難事故マニュアル」等の独自マニュアルを整備し、適切に安全管理を行っている。 ・大会開催数は目標の 30 大会を上回る 36 大会を実施するとともに、東京アクアティクスセンターやカヌー・スラロームセンターを利用する競技団体に対して合宿等での宿泊場所を提供するなど周辺施設と連携した取組を行っている。 ・都の「東京ベイ e S G プロジェクト」の実証実験の場として円滑な調整を行うなど、都の重要施策に対して積極的に協力している。 ・スポーツ振興事業は参加者の向上に向けて工夫が必要
⑧	夢の島公園アーチェリー場	東京都江東区夢の島 2-1-4	アメニス夢の島グループ	R5. 4. 1 ～ R10. 3. 31	A	・利用者向けに「緊急時対応マニュアル」や「熱中症チェックリスト」を独自に作成しているほか、公式ホームページにおいても災害時の避難経路案内を掲載するなど、来場者の安全意識を高める取組を行っている。 ・大会開催数は目標の 20 大会を上回る 49 大会を実施するとともに、競技利用とイベント利用の両立を図ることにより、安定的な施設運営を維持している。 ・夢の島競技場や BumB（東京スポーツ文化館）、地元企業など地域一体となった取組や、提案書にはない大規模イベントの実施など、施設を有効活用するための積極的な取組が見られる。 ・アーチェリーが身近に感じられ、アーチェリー人口の増加に寄与するような事業についても検討していただきたい。
⑨	カヌー・スラロームセンター	東京都江戸川区臨海町 6-1-1	株式会社協栄	R5. 4. 1 ～ R10. 3. 31	S	・不具合発生時には、第三種主任電気技術者等の専門資格を有する職員が迅速に初期対応や修繕を行うことで、コスト縮減と復旧期間の短縮を図っている。また、利用者の安全安心を確保するため、アルバイト職員に対しても速やかに「認定スポーツ救急員プロバイダー」資格を取得させている。 ・水難防止イベント「カヌスラで海そなえ」を令和 6 年度の 1 回から令和 7 年度は 13 回へ拡大し、水難事故防止への普及活動を行うとともに、水上施設の特性を活かした多目的利用を進めた。 ・子供向けのマルチスポーツ体験イベントや、障害のある方を対象としたカヌー体験教室を開催するなど、多くの都民が水上スポーツに親しみ、施設を楽しめるよう多角的な事業を展開している。 ・区市町村と連携した学校単位での水上体験について検討いただきたい。

	施設名	所在地	指定管理者名	指定期間	総合評価	評価内容
⑩	大井ふ頭中央海浜公園ホッケー競技場	東京都品川区八潮4-1-19 及び大田区東海 1-2-1	アメニス海上南部地区グループ	R5. 4. 1 ～ R8. 3. 31	A	・シール材補修や製氷機フィルター清掃など外部事業者に頼らず直営スタッフによる内製化体制により、コスト削減と知見の蓄積を図っている。 ・大会開催数は目標の 23 大会を上回る 52 大会を実施するとともに、ラクロスやフラグフットボール等新規競技の利用拡大を進め、ホッケーやラクロスなど競技の振興に貢献している。 ・利用者のライフスタイルや競技ニーズを踏まえ、平日の早朝利用に対して職員のシフト勤務体制を敷いて確実に対応している。特に夏季においては早朝 7 時から開館し、暑さ対策や学生の練習時間の確保に貢献している。 ・ラクロスとフラグフットボールが次のロサンゼルスオリンピックの追加種目であることを契機とした認知度向上の取組を検討していただきたい。
⑪	東京アクアティクスセンター	東京都江東区辰巳 2-2-1	事業団・オーエンス・セントラルスポーツ・都水協グループ	R5. 4. 1 ～ R10. 3. 31	A	・職員の研修体制について救命救助、接遇、管理職向けなど、年間 17 種類に及ぶ豊富な研修を実施しており、実施内容や受講者の所管が記載された研修報告書を作成するなど、研修実施者が次回の研修へ反映しブラッシュアップを図る仕組みが確立している。 ・デフリンピック開催に当たっては、視察対応や個別の消防訓練のほか、大会時の行幸啓調整などにも適切に対応した。アジア大会についても、数十回に及ぶ視察対応や毎月 1 回の定例会への出席など、大会運営に貢献している。 ・東京辰巳アイスアリーナの開業に伴い、利用者サービス向上の新たな取組として、アイスアリーナを経由したシャトルバス運行を開始した。 ・広域的な役割を担う施設として、水泳指導者育成など水泳振興事業を検討していただきたい。
⑫	東京都パラスポーツトレーニングセンター	東京都調布市西町 376-3	公益社団法人東京都障害者スポーツ協会グループ	R5. 3. 1 ～ R10. 3. 31	A	・スポーツ職、事務職の全職員が「初級パラスポーツ指導員」以上の資格を保有し、窓口対応から現場指導まで障害特性を理解したサポートを行っており、利用者の安全性を高めている。 ・個人利用者数については、味の素スタジアム感謝デーなどの大型イベントでの周知やチラシ配布を行ったことなどにより、前年度から 1,000 人以上の増加（前年度比 52.1%増）となった。 ・利用者アンケートに加え、新たに利用している 13 団体と個別の「意見交換会」を開始した。最寄駅からのアクセスルートが分かりにくいという意見に対して、味の素スタジアムと連携して構内及び周辺において約 50 箇所の案内サインを新設し令和 7 年 9 月に完了させた。 ・障害者の身体特性に応じて効果的に身体能力を伸ばすための科学的トレーニングの導入や、障害者のスポーツ指導に関する知識及びスキル不足に対する指導者への取組など、トレーニングセンターとしての専門的な機能を発揮していただきたい。

	施設名	所在地	指定管理者名	指定期間	総合評価	評価内容
⑬	東京都障害者総合スポーツセンター	東京都北区十条台1-2-2	公益社団法人東京都障害者スポーツ協会	H28. 4. 1 ～ R8. 3. 31	A	・ 握力補助グローブや伴走用の紐の設置など、障害特性に応じたきめ細やかな設備対応がされており、安全安心な施設環境を提供している。 ・ 健康スポーツ相談事業においては利用者との事前のヒアリングを重視し、障害の程度に応じた専門的なアドバイスを実施することにより、継続的なスポーツ実施を促している。 ・ 障害のある方がより身近な場所でスポーツを楽しめるよう区市町村と連携した取組が望まれる。
⑭	東京都多摩障害者スポーツセンター	東京都国立市富士見台 2-1-1	公益社団法人東京都障害者スポーツ協会	H28. 4. 1 ～ R8. 3. 31	A	・ 研修体制として、政策連携団体等向けの研修や看護師によるストレッチャー等の応急救護研修、講師を招いたカスタマーハラスメント研修等を実施し、職員の対応力の向上を図っている。 ・ 指導者育成を目的とした「パラスポーツトレーナーアドバンスタイム」の新設など、利用者個々のニーズに応じたきめ細やかなサービスが実施されている。 ・ カヌー・スラロームセンターと連携した「パラカヌー教室」等、都立スポーツ施設との連携により、施設単体では体験できないスポーツ機会を提供している。 ・ 障害のある方がより身近な場所でスポーツを楽しめるよう区市町村と連携した取組が望まれる。
⑮	東京辰巳アイスアリーナ	東京都江東区辰巳2-8-10	セントラルスポーツ株式会社	R7. 6. 1 ～ R12. 3. 31	B	・ アイスアリーナという特殊な施設においても適切な維持管理が行われている。 ・ 団体利用が集中し個人利用の機会が限られるという課題に対して、早朝や夜間の時間帯を活用し個人利用が可能な「ナイトスケート」、「ナイトカーリング」を実施することにより、競技の普及に貢献している。 ・ 都内のアイスリンクが減少する中、氷上スポーツが身近なスポーツであることをアピールできる。競技による氷の違いや戦略など魅力的な情報を発信するなど、利用者の興味関心を高める取組が望まれる。